

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 6月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『小栗栖の長兵衛』	○	○		
	『初代市川猿翁三代目市川段四郎五十回忌追善 二代目市川猿翁 四代目市川猿之助 九代目市川 中車 襲名披露 五代目市川團子初舞台 口上』		○	○	○
	『義経千本桜 川連法眼館の場』	○	○		
	『ヤマトタケル』	○	○		
シアターコクーン	『天日坊』	○	○	○	○
三越劇場	『華岡青洲の妻』	○		○	○
松竹座(大阪)	『2ピアノ4ハンズ』			○	○
	大阪松竹座第三回 五耀會			○	○
南座(京都)	『壇浦兜軍記 阿古屋』	○		○	○
	『傾城』				
御園座	『夏祭浪花鑑』	○			
	『新歌舞伎十八番の内 素襖落』	○		○	○
	『石川五右衛門』				
博多座	『春調娘七種』				
	『三人吉三巴白浪 大川端庚申塚の場』	○			
	『太刀盗人』	○			
	『極付幡随長兵衛』	○			
	『時今也桔梗旗揚 本能寺馬盃・愛宕山連歌』	○		○	○
	『中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露 中村種太郎改め四代目中村歌昇襲名披露口上』				
	『彦山権現誓助剱 毛谷村』	○			
『寿靱猿』	○				
地方巡業	『歌舞伎へのご案内 大阪松竹座と歌舞伎』	○		○	
	『平家女護島 俊寛』	○			
	『華岡青洲の妻』	○		○	

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

大阪新歌舞伎座	5月	『舞台 陽だまりの樹』プログラム
	6月	『五木ひろし特別公演 松竹新喜劇参加』プログラム、台本
紀伊國屋サザンシアター	5月	『臨界幻想2011』プログラム、台本
	6月	『うしろ姿のしぐれてゆくか』プログラム、台本
国立劇場小劇場	5月	『第一七九回文楽公演』プログラム、床本
国立劇場大劇場	5月	『国立劇場第一三五回舞踊公演 菅原草紙』プログラム
	6月	『平家女護島 俊寛』プログラム、台本
国立文楽劇場	5月	『新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会』プログラム
		『第23回浪曲録声会』プログラム
座・高円寺1	6月	『月の岬』プログラム
ザ・スズナリ	5月	『翔べ! 原子カロボむつ』プログラム、台本
シアターコクーン	5月	『シダの群れ 純情巡礼編』プログラム、台本
シアタートラム	6月	『南部高速道路』プログラム
下北沢Geki地下Liberty	6月	『雷神ウツボ』プログラム
下北沢シアター711	6月	『ディーラーズ・チョイス』プログラム
下北沢小劇場楽園	6月	『スキラギノエリの小さな事件』プログラム
日経ホール	5月	『大手町座第9回 尾上菊之助歌舞伎舞踊公演』プログラム
俳優座劇場	5月	『白野弁十郎』プログラム、台本
		『やってきたゴドー』プログラム、台本
	6月	『危機一髪』プログラム
博品館劇場	5月	『10 TEN STEPS』プログラム
		『第8回世志凡太と仲間たちコンサート』プログラム
	6月	『博品館タップダンスフェスティバル2012』プログラム
パルコ劇場	5月	『ハンドダウンキッチン』プログラム
文学座アトリエ	5月	『NASZA KLASA ナシャ・クラサ』プログラム、台本
本多劇場	5月	『誰か、月光 恐怖・ハト男』プログラム
明治座	6月	『黒蜥蜴』プログラム、台本

■ 演劇雑誌 ■

- 『a a f 通信』2012年6月(33号)
『あぜくら』平成24年6月号
『文楽通信かわら版』12号、13号
『舞踊芸術』2012年6月号、7月号
『Confetti』2012年JULY Vol. 91
『Confettiかわら本』2012年7月号Vol. 91
『伝統文化新聞』2012年(73号)
『悲劇喜劇』2012年7月号
[[特集] 戯曲の書き方 《インタビュー》中村勘九郎 《掲載戯曲》『盟三五大切』鶴屋南北=原作 斉藤憐=脚色 / 『アメリカン・ラブソディ』斉藤憐]
『邦楽の友』平成24年7月号
『ほうおう』2012年8月号
[[インタビュー] 片岡愛之助 / 市川中車・市川團子 《特集》OSK日本歌劇団創立90周年記念 / 新派四季 秋の京都は、新旧の名作二本立て!!]
『喝采』2012年9月 [[特集] 博多座九月公演 北島三郎特別公演]
『月刊 鼓童』2012年6月号
『国立演芸場公演ガイド』平成24年7月号
『メセナnote』2012年Summer 73号 [[特集] 芸術・文化でつくる東日本大震災以降の社会]
『長唄』111号
『日本芸術文化振興会ニュース』平成24年7月号

(新規登録資料案内 演劇雑誌 続き)

『日本照明家協会雑誌』2012年6月号

〔《インタビュー》渋谷公会堂指定管理者所長 新井映夫さんに聞く 《特集》公益社団法人日本照明家協会 東北地方支援第2弾本部特別企画 懇談会「今だから明日を語り合おう」〕

『日本舞踊』64巻7月号〔《特集》秘曲・新曲サロン 長唄 多門狂乱／舞踊写真教室 長唄 お祭り(下)〕

『大向う』平成24年7月号

『ラ・アルプ』2012年7月号〔《特集》劇団四季創立60周年企画第1弾『ひばり』〕

『シアターアーツ』2012年夏(51号)

〔《特集》まだ一年 もう一年—震災からの歩みと、その先へ 《掲載戯曲》『木馬の鼻』唐十郎／『1924人間機械』やなぎみわ=原案 あごうさとし=脚本〕

『シアターガイド』2012年8月号

〔《特集》感ジル!ミュージカル「ルドルフ ザ・ラスト・キス」「スリル・ミー」「ウエスト・サイド・ストーリー」「カム・フライ・アウェイ」「ソングス・フォー・ア・ニュー・ワールド」〕

『テアトロ』2012年7月号

〔《特集》わたしのライバル! 《掲載戯曲》「漂流夢野一座～奈落版～」響リュウ／「樫の木坂 四姉妹」堀江安夫〕

■ 映画雑誌 ■

『CUT』2012年4月号〔《特集》15年目の3D公開、これで『タイタニック』は完成する〕

『ドラマ』2012年7月号

〔《掲載シナリオ》『リーガル・ハイ』第1話・第5話 古沢良太／第30回向田邦子賞受賞『生むと生まれるそれからのこと』岩井秀人 《特集》追悼・新藤兼人 インタビュー採録「ものの見方ととらえ方」〕

『映画テレビ技術』2012年7月号

〔《特集》ドキュメンタリー映画「死刑執行人」の撮影／NAB2012レポート～映像技術動向〕

『映画ビジネス』平成24年5月上旬号

『映画秘宝』2012年8月号

〔《特集》『アベンジャーズ』完全攻略!／2012年、サマームービーは日本映画がヤバイ!〕

『衛星劇場プログラムガイド』2012年7月号Vol. 171

『エキブ・ド・シネマ』2012年No. 188 [「キリマンジャロの雪」]

『FLIX』2012年8月号

〔《特集》関ジャニ∞／ハリウッドセレブのデートスポット／『アメイジング・スパイダーマン』〕

『キネマ旬報』2012年7月上旬号

〔《特集》わたしのゆくえ「ヘルタースケルター」／映画は女優に恋をする〕

『NFCニューズレター』2012年6月-7月号

〔《特集》生誕百年 映画監督今井正／ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画／公演採録 映画はどこで、どのように保存されているのか 日・米ナショナル・フィルム・アーカイブからの報告〕

『NFCカレンダー』2012年7月号、8月号

『日経エンタテインメント!』2012年7月号〔《特集》会いに行ける!最前線 拡大する“生”ビジネス〕

『ピクトアップ』2012年8月77号

〔《特集》『エイトレンジャー』7人が挑んだプロジェクト 関ジャニ∞／『おおかみこどもの雨と雪』〕

『SCREEN』2012年8月号

〔《特集》第65回カンヌ国際映画祭レポート／「アメイジング・スパイダーマン」のすべて〕

『シナリオ』2012年8月号

〔《特集》新藤兼人氏、逝く 《掲載シナリオ》「愛妻物語」新藤兼人／「石内尋常高等小学校 花は散れども」新藤兼人〕

『シナリオ教室』2012年7月号

〔《掲載シナリオ》第22回「シナリオS1グランプリ」受賞作:佳作『猪原家物語—俺とオヤジとオフクロと—』大久保圭子／佳作『破山演義』冬家弓彦〕

『シネフェックス』2012年July No. 25

〔《特集》「ジョン・カーター」／「タンタンの冒険 ユニコーン号の秘密」／「ミッション:インポッシブル/ゴースト・プロトコル」〕

『特ラ連レポート』平成24年5月126号

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『LOVE まさお君が行く!』	○	○	○		○
『シネマ落語 落語研究会 昭和の名人 四』	○				

■ 映画プログラム ■

『ディヴァイド』	『シグナル〜月曜日のルカ〜』	『一枚のめぐり逢い』
『ただ君だけ』	『ラム・ダイアリー』	『グスコーブドリの伝記』
『宇宙戦艦ヤマト2199 第二章 太陽圏の死闘』		『崖っぶちの男』
『さくらん』	『孤独な惑星』	

■ 書籍 ■

『現代日本映画人名事典 女優篇』		キネマ旬報社
『現代日本映画人名事典 男優篇』		キネマ旬報社
『あっぱれ! 旅役者列伝』	橋本正樹 (著)	現代書館
『能楽大事典』	小林責+西哲生+羽田昶 (著)	筑摩書房
『悪魔たち ラーシュ・ノレーン戯曲集』	ラーシュ・ノレーン (著)	晩成書房
『井上ひさし 東北への眼差し』		市川市文学プラザ
『クリスティーナ女王 ラーシュ・フォージェット戯曲集』	ラーシュ・フォージェット (著)	晩成書房
『シンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」の記録』		東京国立近代美術館フィルムセンター
『近松とシェークスピア 傑作俳句の英訳訂』	宮森麻太郎 (著)	同文社
『伝統芸能放送85年史 テレビジョン編』		伝統芸能放送85年史編集プロジェクト
『のう・きょうげんの本』		日本芸術文化振興会
『映画監督って何だ!』		愛育社
『映画賞を一人で作った男 日プロ大賞の18年』	大高宏雄 (編+著)	愛育社
『喜劇王エノケンを偲ぶ』	原田憲 (編)	榎本健一を偲ぶ会
『時代劇の作り方 プロデューサー能村庸一の場合』	能村庸一+春日太一 (著)	辰巳出版
『時代劇は死なず! 京都太秦の「職人」たち』	春日太一 (著)	集英社
『武智鉄二 伝統と前衛』	岡本章+四方田犬彦 (編)	作品社
『チャンバラ天国 極東』	赤井祐男+円尾敏郎 (編)	ワイズ出版
『第24回東京国際映画祭公式記録 [2011年]』		

夏期特別整理休館のお知らせ

館内整理のため、下記の期間休館いたします

平成24年8月4日(土)より8月19日(日)まで

8月20日(月)より通常通り開館いたします

平成24年度専門図書館協議会全国研究会
第3分科会「今後の私立図書館の運営」の報告

平成24年6月20日
於：東京商工会議所
須貝 弥生

毎年開催される専門図書館協議会 全国研究会は、今年は「専門図書館の今日的機能を問い直す」という総合テーマのもとに六つの分科会が設けられた。その中の第3分科会は私立図書館小委員会の担当で「今後の私立図書館の運営」について講義、事例報告、パネルディスカッションが行われ、私は「公益財団法人松竹大谷図書館の運営—公益財団法人への移行を終えて」と題した報告を行い、パネルディスカッションに参加した。

<私立図書館小委員会>

第3分科会の発表者及び司会者は専門図書館協議会の私立図書館小委員会のメンバーで、川村学園女子大学教授の藤田節子先生、(財)石川文化事業財団 お茶の水図書館の田邊由美氏、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所 市政専門図書館の田村康広氏、そして須貝の4名である。

図書館法の改正により、今までは公立図書館に対してのみ設けられていた「図書館の設置及び運営上望ましい基準」が私立図書館にも適用されることになった。これを受けて私立図書館小委員会は、私立図書館の現場の意向を集約して文科省に伝え、新しく出来る私立図書館の「望ましい基準」に反映させるよう活動してきた。(6月30日現在、「望ましい基準」はまだ公表されていない)

<第3分科会>

さて、公益法人制度改革により、私立図書館またはその設置母体である公益法人は、公益社団・財団または一般社団・財団に移行しなければならない。これは私立図書館の存続や運営に大きな影響をもたらすものだ。また、今後文科省から公表される私立図書館の「望ましい基準」は、社会的に認められる公正で自立的な図書館運営を求めるものとなると思われる。こうした大きな環境の変化に、私立図書館の現場ではどのように対応しているのか、この分科会で検証し、今後の方向性を探ろうとするものだった。

<第3分科会の内容>

1. 田村氏より公益法人制度改革と図書館法の改正について解説があった。
2. 藤田先生より「私立図書館とは」「図書館法改正と私立図書館」「望ましい基準」について講演があり、新しくできる「望ましい基準」も私立図書館を規制するものと受け止めるのではなく、図書館運営の指標となるべきものと考えたいとされた。
3. 最初の事例発表は、須貝が松竹大谷図書館の公益財団への移行の実例を発表した。当財団は図書館事業のみを行い、収入は松竹グループからの寄附金が大きな財源となっていることから公益財団への移行を決め、平成21年夏より準備を始めた。平成22年3月に主務官庁である東京都に申請書を提出して、以来8回の補正を重ねて平成23年5月に公益認定を受け、6月に移行登記した。
認定申請の時も、移行してからも、収入が少なく赤字になりがちな財政状況が問題で、寄附金を募集するなど収入を増やし、支出を抑える努力をしなければならないことを報告した。
4. 次は、田邊氏によるお茶の水図書館の事例発表で、この財団は一般財団への移行を選択し、この秋に移行の予定だ。不動産経営を収益事業として持つので、将来所有するビルの建替えがある際には、公益目的事業比率50%以上という条件がクリアできなくなると考えるからである。一般財団に移行した際の課税について説明があった。かなり高額な税金を支払わなければならないようだ。私立図書館の図書館事業は公益性の高いものであり、一般財団に移った法人の公益性が劣るというものではない。税法上の措置は公益か一般かという類型によるものではなく、公益目的事業の質で判断すべきであると主張された。
5. 田村氏を司会とし、藤田先生、田邊氏、須貝によるパネルディスカッションでは、私立図書館を運営する上での自主・自律という観点から下記のことを論点とした。
 - ① 図書館事業に関係する定款や各種規則はどうなっているか。
 - ② 図書館の事業計画や報告は誰がどのように作成しているのか。評価という点で、理事会や評議員会でどのように議論されているのか。
 - ③ 今後の運営での留意点、心配な点について。

分科会への参加者は25名、そのうち社団・財団が11機関あった。皆、今後の私立図書館の運営に関心を寄せている。図書館事業を行うための内規の一つである「図書館利用規程」を作るにしても、参考になるものがあれば大変助かる。その様な相談に応じられる私立図書館同士の連携を、私立図書館小委員会が中心となって作っていききたいと思う。

第23回 松竹大谷図書館所蔵資料展示

「市川中車」展

展示期間：2012年6月29日～7月25日 於：松竹大谷図書館閲覧室

今月の所蔵資料展示は、新橋演舞場6-7月公演における九代目市川中車の襲名を記念し、七代から九代までの市川中車に関する資料を展示しております。

中車という名は、初代から六代目市川八百蔵代々の俳号で、俳優としての名跡は、大正7年に七代目の八百蔵が七代目中車を襲名したことに始まります。

七代目中車(安政7年[1860]～昭和11年[1936])は俳優の家の生まれではありませんが、芝居好きの母の手引きで京都の子供芝居で初舞台を踏み、その後大阪で二代目尾上多見蔵の弟子となり、尾上当次郎の名で俳優としての修行を始めます。この時代、先輩の舞台を毎日見て覚えていた事が、後に様々な役を勤める上で役に立ったということです。明治4年頃中山喜楽の客分として中山鶴五郎の名を得て、地方で修業時代を送った後に上京、明治12年[1879]、猿若座の座元が預かっていた市川八百蔵の名を継ぎ、その後九代目市川團十郎門下となり以後、新富座、中村座、市村座、歌舞伎座と東京の大劇場で活躍します。明治36年[1903]、五代目尾上菊五郎、次いで九代目團十郎を失った歌舞伎座で、八百蔵は自然座頭のような形となり、主役を勤め若手を引っ張ります。また、子供に恵まれなかった八百蔵は、同門の二代目段四郎の三男・初代市川松尾を名前養子とし、大正7年[1918]、八代目八百蔵を名乗らせ、自分は代々八百蔵の俳号であった中車を襲名します。その後も歌舞伎界の重鎮として活躍しますが、昭和5年歌舞伎座の舞台に出演中病で倒れて以後、出演が減り、昭和10年、久しぶりに歌舞伎座の舞台を踏んだものの、病状は思わしく無く、昭和11年に76歳で亡くなりました。



『時今也桔梗旗揚』
(大正10年10月明治座)
武智光秀=七代目中車

八代目中車(明治29年[1896]～昭和46年[1971])は、初代市川猿之助(=二代目段四郎)の三男として生まれます。大正2年[1913]10月歌舞伎座『象引』『裏表心曲尺』で初代市川松尾を名乗り17歳で初舞台を踏みます。4歳で初舞台の兄二代目猿之助(=初代猿翁)、3歳で初舞台の弟蝙蝠(=二代目小太夫)に比べ初舞台が遅かった松尾を心配した母は、然るべき名跡を継がせて立派な役者にしたいと願い、夫段四郎と同門の七代目八百蔵に名前養子の話を持ち掛けます。八百蔵は、以前立ち廻りの最中に、自分の草履が片方脱げてしまったのを、松尾が立ち廻りをしながら蹴り戻してくれた機転を覚えていて、かねてより見どころがあると思っていたため、異も無く承知します。こうして松尾は、大正7年(1918)10月歌舞伎座『随市川鳴神曾我』で八代目市川八百蔵を襲名し、養父であり師匠である七代目中車から厳しく芸を仕込まれます。昭和28年6月歌舞伎座『絵本太功記』の武智光秀役で八代目市川中車を襲名。若い頃は歌舞伎俳優としては遅い出発で苦労を重ねましたが、重要な脇役や敵役、老け役といった役どころで、舞台に無くてはならない俳優として活躍します。最後の舞台となった昭和46年6月国立劇場『梅雨小袖昔八丈』も、それまであまり共演の無かった新三役の二代目尾上松緑に、家主役には是非中車をと積極的に推されての出演でしたが、15日目の舞台を勤めて帰宅後74歳で急逝しました。

九代目中車(昭和40年[1965]～)は二代目猿翁(=三代目猿之助)の長男です。平成元年、NHK大河ドラマ『春日局』の小早川秀秋役でデビュー、以後100本以上の映画・テレビドラマで活躍します。映像の世界では、『独立少年合唱団』(平成12年封切)や『ゆれる』(平成18年封切)で、その年の各映画賞の優秀助演男優賞を受賞、また最近では『劔岳 点の記』(平成21年封切)での日本アカデミー賞最優秀助演男優賞など、数々の受賞歴を誇ります。また、主演作の『トウキョウソナタ』(平成20年封切)は、カンヌ国際映画祭(「ある視点部門」審査員賞)や、シカゴ国際映画祭(審査員大賞)、香港国際映画祭(アジア・フィルム・アワード作品賞、脚本賞)など海外の映画祭でも注目を浴びます。これまで舞台への出演は、多くはありませんが平成9年シアターコクーン『ガラスの動物園』、平成15年シアターコクーン『桜の園』、平成18年御園座『妻をめとらば』、平成19年PARCO劇場『フルフォアラブ』、平成21年シアタートラム『7 Days Judgment-死神の精度』などに出演しています。平成24年6月新橋演舞場『小栗栖の長兵衛』長兵衛役、『ヤマトタケル』帝役で、九代目中車を襲名し、歌舞伎俳優として46歳の初舞台を踏みました。今月の展示ケースの上段には、襲名披露の長兵衛役のスチールが、先代、先々代のスチールとともに並べられています。



■「市川中車」関連資料展示一覧■

- 一、『三人吉三文里一重 二筋道曲輪初夢』演劇スチール(大正 5 年[1916]1 月歌舞伎座)
和尚吉三(七代目八百蔵=七代目中車)
- 二、『繪本太功記』演劇スチール(大正 8 年[1919]5 月歌舞伎座)
明智十兵衛光秀(七代目中車)
- 三、『勲進帳』演劇スチール(昭和 4 年[1929]3 月新橋演舞場)
富樫左衛門(七代目中車)
- 四、『新版歌祭文 野崎村』演劇スチール(昭和 5 年[1930]2 月歌舞伎座)
百姓久作(七代目中車)
- 五、『五條橋』演劇スチール(大正 7 年[1918]7 月歌舞伎座)
従者(初代松尾=八代目中車)、武蔵坊弁慶(二代目段四郎)
- 六、『随市川鳴神曾我』演劇スチール(大正 7 年[1918]10 月歌舞伎座)
曾我一萬丸(初代松尾改め八代目八百蔵=八代目中車)、曾我箱王丸(初代蝙蝠改め二代目小太夫)
- 七、『新宿夜話』演劇スチール(昭和 16 年[1941]6 月明治座)
齋藤大八(八代目八百蔵=八代目中車)
- 八、『繪本太功記』演劇スチール(昭和 28 年[1953]6 月歌舞伎座)
武智十兵衛光秀(八代目八百蔵改め八代目中車)
- 九、『梅雨小袖昔八丈』演劇スチール(昭和 46 年[1971]6 月国立大劇場)
髪結新三(二代目尾上松緑)、家主長兵衛(八代目中車)
- 十、『小栗栖の長兵衛』演劇スチール(平成 24 [2012] 年 6 月新橋演舞場)
中央] 百姓長兵衛(九代目中車)、左] 獵人伝蔵(市川弘太郎)、右] 馬士弥太八(市川右近)
- 十一、『中車茶話』七代目市川中車著 築地書店 昭和 18 年[1943]
- 十二、歌舞伎座筋書 大正 2 年[1913]10 月
初代市川松尾(=八代目中車)初舞台『象引』小姓花井求女・『裏表心曲尺』手代太蔵
- 十三、『桜の園』プログラム(平成 15 年[2003]1 月 8-26 日シアターコクーン)
ラネーフスカヤ(麻実れい)、ロパーヒン(香川照之=九代目中車)
- 十四、『妻をめぐらば〜晶子と鉄幹〜』プログラム(平成 18 年[2006]7 月御園座)
鉄幹(香川照之=九代目中車)、晶子(藤山直美)
- 十五、『フールフォアラブ』プログラム(平成 19 年[2007]2 月 7-25 日 PARCO 劇場)
メイ(寺島しのぶ)、エディ(香川照之=九代目中車)
- 十六、『7 Days Judgement 死神の精度』プログラム・チラシ(平成 21 年[2009]8 月 21-31 日シアター tram)
千葉(香川照之=九代目中車)

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 現在ご支援いただいている方々 (了承を得た方のみ掲載)
法人・団体 (50音順・敬称略)

株式会社衛星劇場
株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社
松竹映画劇場株式会社
株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ
財団法人 昭和池田記念財団

どうもありがとうございます